商の位をそろえ、0を残す

考える手がかり

908を3で割ります。商（しょう）は302、余りは2です。

百の位から9÷3、十の位は0÷3、一の位は8÷3と考えます。

十の位で0と分かっても、商の位をつめません。

3×302+2=908、2<3で確かめます。

見本：同じ位を上下にそろえる

	百の位	十の位	一の位
わられる数	9	0	8
商（しょう）	3	0	2

908÷3=302 余り2

自分の言葉と図でたしかめる

商を32にすると、どの位がずれますか。

商の3は百が三つ、0は十がないこと、2は一が二つを表します。

自分の筆算の数字と、位の表の同じ位を線で結びます。

自分の筆算· 位の表· かけ戻す式

仮の商は、かけて・引いて直す

考える手がかり

568を73で割ります。568は570、73は70くらいとみて、商を8くらいと見当を付けます。

73×8=584は568より大きく、引けません。

商を7に直すと73×7=511、余りは57です。

57<73なので、商7、余り57と確かめられます。

見本：見当の8を7へ直す

仮の商	73×仮の商	568と比べる
8	584	大きすぎる
7	511	余り57

568=73×7+57、57<73

自分の言葉と図でたしかめる

見当を付けた数を、そのまま答えにはしません。

かけた積が大きすぎるなら商を小さくします。

引いた後の余りがわる数以上なら、まだ商を大きくできるか確かめます。

自分の仮の商・積・引いた数の記録

余りを、聞かれたことへ戻す

考える手がかり

953枚のカードを、1箱36枚まで入れます。

953÷36は、商26、余り17です。

36枚ずつ入った箱は26こで、17枚が残ります。

全部を入れるにはもう1箱必要で、最少27箱です。

見本：同じ除法でも答える量が違う

見本：26この箱、一つ36枚



箱の中は36×26=936枚

953枚では、余り17枚

自分の言葉と図でたしかめる

「満杯の箱の数」「余りの枚数」「全部を入れる箱の数」を分けます。

36×26+17=953、17<36で数を確かめます。

余りをいつも捨てたり、いつも商へ1をたしたりせず、問いの条件へ戻ります。

自分の箱の図· 式· 答える量の表

C1· C2：自分の筆算と確かめ

C1. 736÷4の筆算を、自分で実際に書いてください。最初の商をどの位に置いたか、途中で余ったまとまりを次の位へどう移したかを印で示し、かけ戻す式でも確かめてください。

解答· 理由を書く

C2. 826÷4の筆算と、自分の位の表を書いてください。商に0を残す位と、その段階で余ったまとまりを示し、0を消すとどう変わるか説明してください。

解答· 理由を書く

C1：自分の筆算· 表· 図· 理由

C2：自分の筆算· 表· 図· 理由

C3・C4：自分の筆算と確かめ

C3. 友達は627÷78を「商7、余り81」としました。自分の表に仮の商・かけた積・引いた数を残し、そのまま答えてよいか確かめて、必要なら直してください。

解答・理由を書く

C3：自分の筆算・表・図・理由

C4. 784÷32を自分で筆算してください。最初の商の位と、その後の各段階でかける・引く・次の位と合わせる対応を示し、商と余りを元の式で確かめてください。

解答・理由を書く

C4：自分の筆算・表・図・理由

C5・C6：自分の筆算と確かめ

C5. 864÷36を、わられる数とわる数をどちらも4で割った式に直してください。自分の三行の表に元の式・両方を割った式・わる数だけを割った式を示し、商が同じになる場合を説明してください。

解答・理由を書く

C5：自分の筆算・表・図・理由

C6. 725枚のカードを、1箱24枚まで入れます。満杯になる箱の数と余る枚数、全部を入れる最少の箱の数を、自分の箱の図と式、答える量の表に分けて示してください。

解答・理由を書く

C6：自分の筆算・表・図・理由

C7・C8：自分の筆算と確かめ

C7. 割られる数は3けた、わる数は2以上9以下の整数、商は3けたで十の位が0、余りは1以上でわる数より小さくなる除法を、自分で一つ作ってください。自分の筆算と位の表、確かめの式を残してください。

解答・理由を書く

C8. 友達は「わられる数=わる数×商+余りの式が合えば、余りの大きさは見なくてよい」と言いました。割られる数が3けた、わる数が2けたの正の整数になる自分の例を作ってください。余りとして残した数がわる数以上になる仮の式と、直した式を、自分の図に対応させて示してください。

解答・理由を書く

C7：自分の筆算・表・図・理由

C8：自分の筆算・表・図・理由